

第二回 (株) 有線ブロードネットワークス番組審議会 議事録

開催日時：平成 13 年 7 月 24 日 11:00～

開催場所：(株) 有線ブロードネットワークス本社 13F

出席者 委員：小林亜星、大島綏子、有馬祐行、青木寶久、池田憲一、山本武司（順不同・敬称略）

放送局側：10 名

議事内容

1. 課題番組

BF-10ch 「ざっつ演歌ていんめんと」より「歌謡ほっとアクセス」、「真 唯林のアジアン歌謡」、「お色気歌謡」 BF-6ch 「M-POP」

2. 番組審議

番組の内容に対するご意見、要望

- これからの時代に対して、演歌の在り方について見直す必要がある。
- 演歌の新しいスタイルの構築。高齢者層をターゲットとするのではなく、団塊の世代をターゲットとするようなものはできないだろうか。
- 都市部よりも地方では演歌の裾野は非常にひろい。自分で表現できる演歌の在り方の追求が必要。"聞いていたいなあ"というよりは"歌いたいなあ"と思わせるような番組づくりが大切。
- 「お色気歌謡」の選曲に関して、コンテンツの性質がかなり類似したものであるため、30 分間連続して聴かせるためには選曲の幅をもう少し広げていく必要がある。
- 新譜を単に羅列するだけでなく、もっとホットな情報を打ち出していくべきではないだろうか。
- 番組が、古い素材から取り出すだけというスタイルに陥らないためには、様々な切り口を見出していくことが大切ではないだろうか。
- 番組担当者の嗜好が反映されてしまうような番組を放送するのではなく、リスナーが楽しくきけるような番組をもっと増やすべきである。たとえば、パーソナリティの話の中で、もっと生活観があってリスナーとの距離が近づくような内容の導入を試みてはどうだろうか。
- メジャーなアーティストによる選曲をメインにした演歌番組を新設してみてはどうだろうか。
- 外国人に向けて、演歌を通じて日本人の心をうまく表現できるような構成の番組は展開できないだろうか。
- 「真 唯林のアジアン歌謡」に関して、近年の日本とアジア諸国の関係の中で、音楽という視点からの交流をもっと深めることが可能ではないだろうか。